

〔国際会議〕

申請者	京都大学 大学院 情報学研究科 教授 酒井 英昭	2015004
研究集会名	2012 IEEE International Conference on Acoustics, Speech, and Signal Processing (ICASSP) (2012年米国電気電子学会 音響・音声・信号処理に関する国際会議)	
開催期間	平成24年3月25日～3月30日	
開催場所	国立京都国際会館	
申請者の役割	共同組織委員長	

概要：

信号処理は、視覚や聴覚で知覚される映像や音声等を主な対象として、電気工学や通信工学を中心に発展してきた技術であり、従来から人間と機械の調和の促進に貢献してきた。今日では工学のみならず、経済学、医学などの人間社会に深く関わる分野でも必要不可欠な基盤技術となっている。特に最近では、安全や安心、最適化社会実現に関わる話題など、より人間側の視点からの応用が注目されている。本会議の目的は、これら広い学問分野の世界第一線の研究者が一堂に会し、最新の成果や産業界での新展開について議論する場を提供することである。本国際会議は、アジア諸国の経済発展やIT産業の活性化に伴い、2009年の台北での開催に続き、2012年に再びアジアの「日本」での開催されることで、近隣諸国の研究者にとって大きな目標となっている。特に、我が国にとっては、この分野で引き続き世界をリードしていくためにその意義は非常に大きいと考えられる。本会議では、国内から500名以上、海外からは50を越える国及び地域から、当初の予想を大幅に上回る1,500名以上、合計2,000名以上の参加者があり、今後のIT社会に必須な上記学問分野の発展に我が国が貢献すると同時に、学生を中心とした若手研究者に対し大きな刺激を与えるまたとない機会となった。さらに、音声信号処理の分野において国内から多数の優れた研究成果が発表され、この分野での我が国の主導的役割をさらに強固なものとすることができた。同時に、重要な領域で我が国の研究者層の比較的薄い分野でも、世界中から参加した主要研究者の最新の研究成果に刺激を受けて、当該分野の研究の発展が今後期待できる。また、本会議には多くのアジア・太平洋地域の主要研究者が参加しており、この地域での研究交流がますます盛んになるきっかけともなった。